2024 春季生活闘争妥結

トライ
北九州
No.46

発行者
九州旅客鉄道労働組合
中央本部北九州支部
発行責任者　山田　信隆
編集責任者　成清　智宏

北九州市小倉北区
室町3－2－155

TEL(093)583-3880

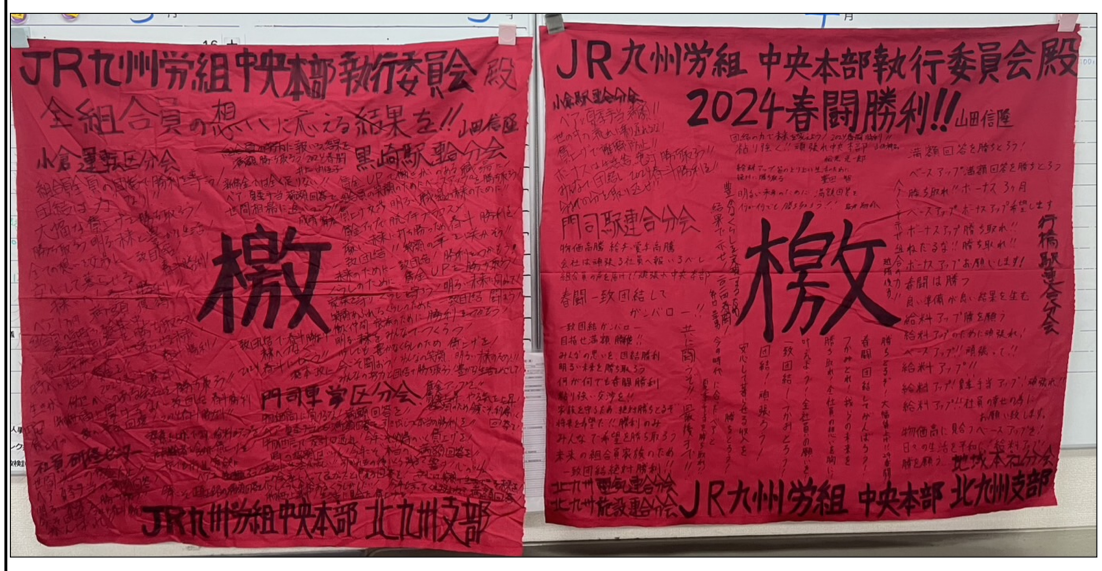
更なる上積みのベアなし
夏季手当は2.5ヶ月分＋一時金20万円

JR九州労組中央本部は、3月14日（木）から3月15日（金）を春闘のヤマ場に設定し、ベースアップ1万円と夏季手当3.0ヶ月分を要求し、会社との団体交渉を重ねた。

北九州支部では、各分会と連携し、檄布の作成や春闘署名の取り組みを実施し、中央本部に対して「檄」を送った。

団体交渉では、昨年8月に集約した人事・賃金制度の改正で、産業間格差の是正や直近の物価高騰を超えることができないこと、離職にも未だ歯止めがかかっておらず人財の確保・定着と採用競争力強化に向けた人への投資が必要不可欠であること、コロナ禍からの回復を成長軌道に回復させてきた組合員の協力に報いなければならないことなどを強く主張してきた。

しかしながら会社は、終始人事・賃金制度改正における基本給引き上げと定期昇給分を加味すれば一定以上の賃金引上げがあるとの主張を繰り返し、我々の主張である物価上昇に負けない賃金引き上げと組合員への労苦に酬いるべくベースアップが必要との考えは平行線を辿り、賃金制度改正の更なる上積みは最後まで引き出すことが出来なかった。



各分会から寄せられた檄文を元に作られた檄布

夏季手当については、第3四半期決算が好調な成績であったこと、この間の組合員への頑張りに酬いる事を踏まえ、交渉を重ねた結果、昨年の夏季手当を上回って年末手当と同月数の2.5ヶ月分の回答を引き出すことができた。また、一時金20万円を引き出すことができた。

また、勤務・賃金等の一部改正について、育児世代から強く求められてきた「育児を行うための勤務措置の対象者の見直し」、「養育休暇の使用単位の見直し」は、一定の改善を図ることが出来た。

組合員の声

「せめて、前回の春闘で新人事・賃金制度の先行分であった3千円のベースアップを勝ち取ってほしかった」（30代乗務員）

「ベアが取れなかったのは残念だが、夏季手当は、2.5ヶ月分と一時金20万円を考慮すると、夏季手当については満額回答と言っても良い結果だと思う。組合の頑張りに感謝したい」（40代工務）

「新賃金でようやく他企業の賃金に追いつきつつあったが、他の大手企業も高額ベア回答をしているため、結局賃金格差が縮まらなかった。ベアは絶対に必要であったと思う」（20代駅）

「こどもがまだ小さいので、育児制度の時短勤務や深夜帯勤務免除の対象拡大は、率直に言ってありがたい。時短勤務についても、小学校卒業まで活用できるよう、引き続き取り組んでほしい。」（30代駅）

北九州支部 拡大分会代表者会議を開催

北九州支部では、3月20日（水）、KMMビルにおいて、支部委員会に代わる拡大分会代表者会議を開催した。

本来であれば、支部委員会を開催するところではあるが、規約により拡大分会代表者会議にて代えることができることとなっているため、北九州支部では分会の負担軽減等の観点から拡大分会代表者会議を開催している。

会議は、山田支部委員長と川﨑本部執行委員の挨拶に始まり、その後次期北九州市議会議員選挙に立候補を予定している地域本社分会の山田大輔氏が挨拶をした。

執行部から、2024春闘を含むこれまでの経過報告、当面する活動方針案、暫定予算案、諸規則の改正について提起がされた。

諸規則の改正では、来月に実施される折尾工務所の設置と、駅直営化に伴うエリア制度化に基づいた分会体制の見直しが提起された。

その後の採決では、全ての議案に対して満場一致の拍手で可決され、8月の定期大会までの当面する活動、諸規則の改正、暫定予算が決定した。

連合福岡北九州地協 春闘ボウリング大会開催
門司車掌区分会の熊谷さんが7位入賞

3月4日（月）、小倉北区のコロナワールドにおいて、連合福岡北九州地協主催の「春闘ボウリング大会」が開催されました。

北九州支部からは、島本副委員長と瀧本執行委員、門司車掌区分会から熊谷さん、猿渡さん、迎さんが参加しました。

当日は、「春闘勝利にむけてストライクを！」との意気込みの中、日頃触れ合うことの少ない他企業の方とボウリングに汗を流しつつ、交流を深めました。

結果、個人の部で熊谷さんが7位入賞の優秀な成績を納められました。

北九州支部　ゴールデンウィーク期間休業のお知らせ

北九州支部では、以下の期間ゴールデンウィーク休業期間として、支部を閉鎖いたします。※職員はいません。
緊急時等は、分会役員か支部役員までお知らせください。

4月27日(土)⇒5月6日(月)